

令和7年度 授業力向上推進プロジェクト

タブレットの録音と自動文字起こし機能 を活用したスピーキング活動の研究

岐阜高等学校 岸本真里

1

目次

- ▶ スピーキング指導の現状と課題
- ▶ 研究の目的と進め方
- ▶ 授業実践の概要と結果
- ▶ アンケート結果と考察
- ▶ タブレットを活用したスピーキング指導の成果と課題
- ▶ 今後の展望

2

スピーキング指導の現状と課題

授業でのスピーキングの進め方の例

1. 本文の学習⇒テーマについてスキーマの活性化
2. テーマ、設定の提示
3. テーマについてブレインストーミング
4. ペアでスピーキング活動
5. スピーチの内容についてライティング

発話内容が記録として残らないため、生徒が自分の発話を振り返って評価を行うことが難しい



タブレットの録音機能および自動文字起こし機能を活用することで、効率的に振り返り、評価ができるか？

3

研究の目的

1. **発音・イントネーションへの意識向上**
Wordの文字起こし結果を通じて、自身の発音がどの程度正確に認識されるかを確認することで、発音やイントネーションに対する意識が高まる。
2. **スピーチ内容・構成の客観的評価**
可視化されたスクリプトを用いて、自身のスピーチの内容や構成を客観的に振り返り、改善点を見つけることができる。
3. **反復練習によるスピーキング力の向上：**
録音・文字起こし・リライト・再録音という反復的な練習と振り返りを通じて、スピーキング力の向上を図る。

4

研究内容

(1) 研究対象

普通科1年生80名 英語コミュニケーション I

(2) 使用ツール

生徒用タブレット (Microsoft365 Word)

5

研究内容

(3) 実施手順

1. ウォームアップ:

教科書本文を音読練習し、その後 Word の録音機能を使って録音・文字起こしを行う。

2. スピーチ準備:

スピーチのトピックを提示し、事前に OREO (Opinion, Reason, Example, Opinion) 構成について指導する。

3. 初回スピーチの録音・文字起こし:

生徒にスピーチを録音させ、Wordで文字起こしを実施する。

4. スクリプト確認:

スクリプトと録音を確認し、意図通りに認識されなかった箇所をチェックする。

6

研究内容

(3) 実施手順

5. 構成確認:

スクリプトに OREO の要素が含まれているかを確認する。

6. リライトと再録音:

スクリプトをリライトし、音読練習後、再度録音・文字起こしを行う。

7. 提出:

初回スピーチのスクリプトとリライト後の原稿をformsで提出させる。

8. アンケート:

アンケートに回答する。

7

タブレットによる録音・文字起こし手順

1. Microsoft 365Wordを立ち上げ、[白紙文書]をクリック

2. ディクテーションの右側の▼をクリック⇒[トランスクリプト]をクリック

3. 言語を[英語(米語)]に設定

4. 録音を開始し、本文の音読orスピーチ開始⇒終了

5. [今すぐ保存してトランスクリプトを作成]をクリック

6. [ドキュメントに追加]をクリック

8

授業実践①

英語コミュニケーションⅠ：40人

CROWN Lesson6

“Should junior high school students have their own smartphone?”



DISASTER

9

授業実践①

問題点：

- ・タブレットがネットワークにつながらない
⇒30分間で録音までたどり着けたのは数人

分かったこと：

- ・ブラウザ版のMicrosoft365Wordではなく、Wordアプリからも録音、文字起こし機能を利用することができる
- ・個人のスマホからでもMicrosoft365にログインすれば、Wordの機能を利用することができる

10

授業実践②

論理表現Ⅰ：分割授業(20人)

CNN Extended Course NEWS7

【授業の流れ】

- ①ニュースを通してオンラインから職場への回帰の流れを学ぶ
- ②オンラインでの仕事と職場での仕事のメリット、デメリットを考える
- ③本文の音読練習⇒録音
- ④テーマについてスピーチ⇒録音

“Which is better: taking classes in a classroom or online?”

- ⑤録音したスクリプトをリライトして、最初のスクリプトと共に提出



11

授業実践②

生徒A:初回のスピーチのスクリプト

I think that taking classes in. The classroom is better than online classes because I can focus on classes better than whether when I am in the classroom. When I have an online class, I can concentrate lessons because there are a lot of things that distract me. So I believe that taking Glasses in the classroom is better.

12

授業実践②

生徒A：リライトしたスクリプト

I think that taking classes in the classroom is better than taking online classes. It is because I can focus on lessons better. When I have an online class, I can't concentrate on them because there are a lot of things that distract me in my home. **Also, when I take classes in the classroom, I can discuss with classmates more. Thanks to discussion, I can get better ideas. Taking online classes is not useful to do that.** So, I believe that taking classes in the classroom is better.

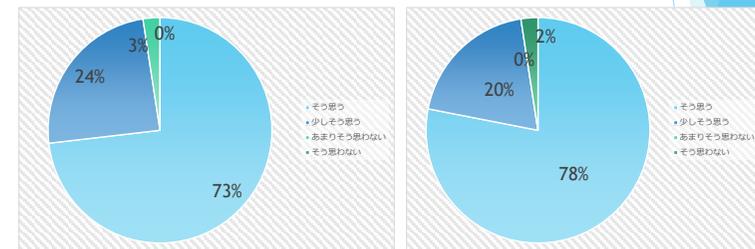
※赤字はリライトで追加された内容。

13

アンケート結果より (n=41)

自分の発音やイントネーションを意識するようになったか？

自分のスピーチの改善点を見つけやすかったか？

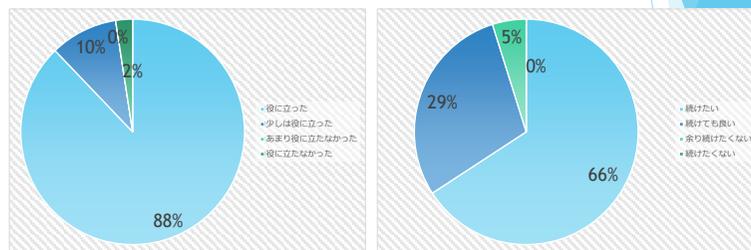


14

アンケート結果より (n=41)

Wordの録音・文字起こし機能はスピーキング練習に役に立ったか？

今後もこの活動を続けたいと思えますか？



15

アンケート結果より

生徒の感想

- ・いつもはあまり意識していないけど、文字起こしをしたことで、発音や声の大きさを意識できて良かった。
- ・初めて自分の音声が文字になることをやって、とてもおもしろかった。
- ・全然内容が違って自分の発音がよくないのが分かった。内容理解だけでなく、スピーキングも意識したいと思いました。
- ・スピーキングを自分でやってフィードバックでき、自分だけですべて完結するので、スピーキングへの壁が低くなった感じがした。そして、単純に楽しいと感じた。
- ・難しかった。

16

成果と課題（目的の達成）

1. 発音・イントネーションへの意識向上

- ・アンケート結果より、多くの生徒において発音・イントネーションへの意識の向上が見られた。
- ・生徒によっては音声をタブレットに正しく音声を認識させることが難しいと感じており、意欲の低下につながらないように、フォローする必要がある。

17

成果と課題（目的の達成）

2. スピーチ内容・構成の客観的評価

- ・最初のスクリプトとリライト後のスクリプトの比較により、多くの生徒がスピーチ内容を客観的に振り返り、改善することが出来たことが分かった。
- ・アンケート結果より、生徒自身が文字起こしにより自分のスピーチの改善点を見つけやすいという実感を持っていることが分かった。

18

成果と課題（目的の達成）

3. 反復練習によるスピーキング力の向上

- ・今回の実践はまだ実施回数が少ないため、反復練習による成果は確認することが出来なかった。

19

成果と課題（その他）

心理的負荷の軽減

他の生徒に向けてのスピーチよりも、相手がタブレットである方が心理的負担が少なく、より落ち着いて話しやすい傾向が見られた。

ライティング能力の向上

スクリプトのリライトでは、単なる誤り訂正にとどまらず、より良い内容にしようとする工夫が見られ、ライティング力の向上にもつながることが期待できる。

機器トラブルによる制約

タブレットの不具合が一部で発生し、活動が十分に行えない生徒もいた。

時間の制約

ある程度の時間がかかるので、時間の余裕が必要である。

20

成果と課題を踏まえた今後の展望

- ・生徒の発音・イントネーションへの意識が高まり、スピーチ内容を客観的に振り返り改善する姿勢が育まれた。
- ・スクリプトのリライトや文字起こしにより、改善点を見つけやすく、ライティング力向上にもつながる可能性が確認された。
- ・タブレットを活用した練習で心理的負担が軽減され、落ち着いて話せる環境が整った一方で、機器トラブル、反復練習の時間不足といった課題が残った。
- ・今後は、ICT活用の安定化、個別フォローの強化、反復練習の拡充を図り、生成AIによる添削を導入も検討し、スピーキング力とライティング力の着実な向上を目指す。

21

使用教材

CROWN English Communication I 三省堂
CNN Workbook Extended Course 朝日出版社

22